

明解 歴史総合

指導資料・関連教材 カタログ



- 指導資料 Web サポートコンテンツ付 …………… p.2
- 教科書準拠ノート …………… p.12
- デジタル教材 …………… p.14

明解 歴史総合

● 指導資料Webサポートコンテンツ付

- 内容 ① 指導用教科書 AB判 / 248 ページ
② 使い方・Web サポート等案内冊子
③ 指導書 Web サポート

1 指導用教科書

● 教科書本体の見開きページの縮刷版をもとに構成した、教科書と同じ AB 判サイズの指導資料です。

↓教科書 p.55-56 に対応したページの例

2 使い方・Web サポート等案内冊子

- 指導用教科書の使い方と、Web サポートのコンテンツを紹介する冊子です。
- 指導用教科書に何が書かれているか、どのように使えばよいかを紹介しています。
- 指導書 Web サポートに収録しているコンテンツの概要と、帝国書院ウェブサイトから Web サポートを利用するためのアクセスキーを掲載しています。

3 指導書Webサポート

- 授業スライドや各種ワークシートなど、授業の準備や評価で役立つデジタルコンテンツをご利用いただけるサービスです。
- 帝国書院ウェブサイトから会員ページにログイン後、「使い方・Web サポート等案内冊子」に記載されたアクセスキーをご入力いただくことで、コンテンツ一覧ページにアクセスできます。
- ご利用いただけるデジタルコンテンツは、下記の通りです。

1. 授業スライド (.pptx/Google スライド) 本冊子 p.6
2. 授業プリント (.docx) 本冊子 p.7
3. 評価問題例 (テスト例) (.docx) 本冊子 p.8
4. 歴史に迫る！ワークシート (.docx) 本冊子 p.9
5. 見通し・振り返りシート (.docx/Google スプレッドシート) 本冊子 p.10
6. 教科書本文 (.txt) 本冊子 p.10
7. 教科書紙面ビューア 本冊子 p.11
8. 教科書掲載図版〈カラー/モノクロ〉(.jpg) 本冊子 p.11
9. 学習課題・確認・説明の解答例 (.txt)
10. 年間指導計画案・評価規準例 (.xlsx)
11. 映像資料
12. 図版アニメーション
13. 教科書 QR コンテンツ〈一問一答〉(.xlsx)
14. 教科書 QR コンテンツ〈用語解説〉(.xlsx)
15. 白地図集 (.jpg)
16. 参考文献紹介 (.docx)
17. 教科書 QR コンテンツへのリンク

2部「近代化と私たち」4章「産業革命による欧米とアジアの変化」教科書 p.57-58

年 月 日 年 組 番 / 名前

歴史に迫る！2「幕府の外交交渉をどう評価するか」

学習課題 課題に取り組み、評価①と②を読んで、どちらの評価が妥当だと考えか表現しよう。

妥当だと考える理由	そう考える理由

検証A. 幕府側の考え

読み解 資料①②を読んで、以下の文章の正しいと思う方に○をしよう。
「幕府は海外の情報を、() 得ていた ・ () 得ていなかった」。
このため、海岸の防備が () 必要と考えた ・ () 不要と考えた」。

検証B. 日米和親条約の内容

読み解 資料①において、問題となる条文はあるだろうか。また評価すべき条文はあるだろうか。幕府の立場から考え、下の表に分類しよう。

問題となる条文だと思う	評価すべき条文だと思う
条文番号	条文番号
そう思った理由	そう思った理由

検証C. ハリスとのやり取り

読み解 資料③を踏まえ、ハリスの演説は幕府にどのような影響を与えたと考えられるだろうか。述べよう。

学習の見直し・振り返りシート

2部 4章 産業革命による欧米とアジアの変化

年 月 日 年 組 番 / 名前

学習課題 課題に取り組み、評価①と②を読んで、どちらの評価が妥当だと考えか表現しよう。

妥当だと考える理由

そう考える理由

学習の見直し・振り返りシート

2部 4章 産業革命による欧米とアジアの変化

年 月 日 年 組 番 / 名前

学習課題 課題に取り組み、評価①と②を読んで、どちらの評価が妥当だと考えか表現しよう。

妥当だと考える理由

そう考える理由

↑⑤見通し・振り返りシート (.docx) の例



↑⑧教科書掲載図版〈カラー〉(.jpg) の例

↑④歴史に迫る！ワークシート (.docx) の例

指導資料

準備

デジタル教材

1 指導用教科書

- 教科書本体の見開きページの縮刷版をもとに構成した、教科書と同じ AB 判サイズの指導資料です。
- 教科書掲載内容の解説だけでなく、発問例や板書例、図版解説なども掲載。この 1 冊で授業の要点を押さえられます。

↓教科書 p.55-56 に対応したページの例

2部4章 産業革命による欧米とアジアの変化

7 黒船の来航と日本の対応

読み解き 解答例 江戸幕府はオランダから、アヘン戦争による欧米の軍事力の脅威や、アメリカが武装したペリーを派遣することについての情報を得ていた。

解説 1843年の情報からイギリスの軍事力が強大であることが読み取れる。また、1852年の情報から、幕府は武装したアメリカの来航を知らされていたことが読み取れる。この2点の読み取りに、アメリカの軍事力への推論を加えたい。

図1 日本で想像で描かれたアメリカ船

解説 黒船の来航により、新しい科学技術を前提とした軍事力の存在を民衆は驚きと興味をもって知ると同時に、対応に当たる幕府や武士階級の混乱ぶりが民衆に露見することになった。情報は瓦版や手紙を通じて全国に素早く伝播した。

本文 蘭学者のネットワーク

解説 知識人である蘭学者の多くは医者であり、1850年代から種痘普及のため、同じ流派の全国的なつながりをもったほか、地域のなかでつながりがあった。さらには教育や学問サークルなど、蘭学者以外の知識人同士の情報交換のネットワークができており、海外情報や政治情報にまで情報共有がなされた。

本文 意見を幕政に反映させようとする動き

解説 当初、危機感をもった有志の大名は、縁戚関係や交友関係を駆使して幕内への影響力を模索した。ペリー来航に際し、幕府は諸大名や旗本などからも意見を聴取した。決定権は幕府がもつとされたが、これを機に、外様大名などが政治参加への道を切りひろくこととなった。

図2 ペリーの航路と日米修好通商条約の開港・開市地

解説 ペリー艦隊は日本に来る前に琉球に立ち寄り、軍事的圧力の下でアメリカの捕鯨船のための貯炭施設の設置などを認めさせた。ペリーの東アジアでの来航地は、自国の捕鯨船の補給に適した土地を選んでいる。

図1 日本で想像で描かれたアメリカ船(1854年)

図2 ペリーの航路と日米修好通商条約の開港・開市地

7 黒船の来航と日本の対応

海外情報への対応 欧米が日本に近づくなか、幕府は、オランダ領東インド会社からの情報や、西洋の地理書の翻訳、帰国した漂流民からの情報を通じて、ヨーロッパ諸国の世界進出への認識を深めた。アヘン戦争の結果が清の商人などから伝わるなか、幕府は1842年に「**欽定通商手続**」を出して欧米諸国との紛争を避け、海防の強化を進めた。また、海外情報は蘭学者のネットワークから日本各地に広まり、海外に高い関心をもつ大名も現れた。佐賀藩や薩摩藩では欧米の思想や技術を積極的に吸収して備えようという動きが強まり、幕府では尊王思想と外国では、意見を幕政に反映させようとする動きも活発になった。

日本の開国 ヨーロッパで1848年からの動乱やクリミア戦争が起こるなか、アメリカがヨーロッパ各国の扉を叩いて日本を目指した。国土を太平洋岸まで広げたアメリカは、南京条約で開港した清との貿易における中継地点と、日本近海における捕鯨のための補給地点を確保するため、日本を開国せよとペリーを派遣した。1853年、ペリーは薩摩沖に到着した。アメリカ船の来航を事前にオランダから通告されていた幕府は、軍事的対抗は難しいと判断し、開国を勧告するアメリカ大統領の国書を受けとった。その後、回答を聞きに来るというペリーに備え、幕府は諸大名や下級の幕臣に意見を求め、朝廷にも報告した。それまで幕府が政治に関する意見をこれほど広く求めたことはなかった。

本時のねらいと学習課題

1. 開国の要求に対して日本側が取った対応を、行動の主体(幕府と各藩)に着目して理解する。
2. 日本の対応のうち後世にも最も影響を与えたものは何か、根拠に基づいて自分の考えを表現する。

「章の学習課題」との対応

欧米諸国の進出によって世界市場に組み込まれた江戸時代の日本において発生した、正負両面の変化を検討することで、「西洋の衝撃」の歴史的意義を多面的に考察する材料を獲得させる。

【課題の解答例】

江戸幕府は、それまで行っていなかった諸大名や幕臣への意見の聴取及び朝廷への報告をしたうえで、開国という決断をした。

確認・説明 解答例

確認 縮刷版上のマーカー部分を参照。
説明 清は抵抗して戦争を行ったのに対し、日本は開国して欧米を受容した。この違いは、オランダからの情報により、欧米諸国の軍事力などに対する認識に差があったことによる。

評価のポイント

1. 清と日本それぞれの対応を比較して相違点を説明している。
2. 歴史的事実を用いて、自分が挙げた相違点の理由を説明している。

板書例

●海外情報への対応 発問①

欧米の日本への進出情報 → 幕府や藩による対応

①江戸幕府の対応…オランダ風説書、帰国した漂流民など
 ・薪水給与令の発布(1842年)…紛争回避+海防強化
 アヘン戦争での清の敗北の影響

②各藩の対応…蘭学者のネットワーク
 水戸藩…尊王攘夷思想の発生
 佐賀・長州・薩摩藩…ヨーロッパの思想や技術導入

指導のポイント

- 発問①** 江戸幕府や諸藩は、欧米諸国のアジア進出に対し、どのように考えていたのだろうか。
- 解答①** 幕府は欧米諸国の軍事力に脅威を感じたのに対し、藩のなかには欧米諸国に対抗しようとするものもあった。
- ポイント** 江戸幕府と水戸藩・佐賀藩・薩摩藩の違いのように、欧米諸国に対する考え方には主体によって差があったことに留意する。

図3 幕末の物価の変遷

本文 日本中の人々が身分を超えて政治に高い関心をもつ

4章の振り返り 解答例 「西洋の衝撃」に対処する過程のなかで、アジア諸国では近代化を進めたり輸出を増加させたりするなどの変化が起こった反面、自由貿易市場や植民地として国際的分業体制に組み込まれ、経済的・政治的に圧力を受けた。

●日本の開国 発問②

- ・アメリカの日本進出…対清貿易の中継点、捕鯨の補給基地
- ・1853年 ペリーが浦賀に来航…開国を勧告
→ 幕府が諸大名や幕臣に意見を求め朝廷へ報告
…朝廷や有力大名の発言力強まる
- ・1854年 日米親善条約の締結…露・英とも同様の条約を締結
外国船の補給、漂流民保護など
→ アメリカがさらに自由貿易要請、開国・貿易の実施へ
- ・1858年 日米修好通商条約の締結…欧州諸国とも同様の条約
不平等項目…関税率の協定、領事裁判権の承認

- 発問②** アメリカの開国要求に対して幕府がとった行動は、それまでと何が違い、どのような意味があったのか。
- 解答②** 諸大名や下級の幕臣などに広く意見を求めて朝廷にも報告した。身分にかかわらず政治に対して意見をもつきっかけとなった。
- ポイント** 教科書p.55本文20行目以降の記述通り、それまで幕臣は幕府に対して政治的意見を表明することが許されていなかったにもかかわらず意見を求められたことにより、公議政体へ向けた端緒となったことを理解する。

●開国の影響と近代化改革 発問③

- ・世界市場への参加 → 国内経済の混乱
 生糸・蚕卵紙の輸出…国内での原材料不足
 綿糸の輸入…綿関係産業に打撃
 - ・近代化改革の実施…軍事力強化と人材登用で欧米に対抗
 幕府：蕃書調所や海軍伝習所の設置
 各藩：幕府：海外へ使節や留学生派遣
- 発問③** 欧米諸国は何を目的に日本に訪れ、日本に何をもちたのだろうか。
- 解答③** 世界市場へ日本を組み込むことを目的としており、ヨーロッパとの貿易によって国内経済は混乱したが、近代化も進められた。
- ポイント** 欧米諸国による世界的な自由貿易体制構築という文脈のなかで、日本の開国と近代化を位置づけ、日本にとっての「西洋の衝撃」であることを確認する。
- ・欧米諸国の来航が日本の歴史においてもつ意義を、中学校までに学習した幕末から明治時代の知識を踏まえ考察する。

3 指導書 Web サポートコンテンツ ① 授業スライド

- 教科書 1 見開きにつき 10~20 枚のスライドを、PowerPoint データと Google スライドデータで収録しています。
- オリジナルの授業スライドを作る際にも、ご活用いただけます。

↓教科書 p.55-56 に対応した授業スライドの例 (一部分を抜粋)

※クリックするとフセンがはがれます

3 指導書 Web サポートコンテンツ ② 授業プリント

- 授業スライドに対応したプリントの生徒用と教師用 (解答入り) を Word データで収録しています。
- また、振り返りの「自己評価欄」も設けています。

↓教科書 p.55-56 に対応した授業プリント (教師用解答) の例

年 組 番/名前		
2部 4章 産業革命による欧米とアジアの変化	教科書 p.55~56	年 月 日
7 黒船の来航と日本の対応		

学習課題

Q: 日本は、欧米諸国の進出に対してどのように対応したのだろうか。

<学習のポイント>

(1) 開国の要求に対して日本側が取った対応を、行動の主体 (幕府と各藩) に着目して理解しよう。

(2) 日本の対応のうち後世に最も影響を与えたものは何か、根拠に基づいて自分の考えを表現しよう。

● 海外情報への対応

欧米の日本への進出情報 → 幕府や藩による対応

(1) 江戸幕府の対応…オランダ風説書、帰国した漂流民など

- ・ 1842年 [(1) 薪水給与令] の発布…紛争回避+海防強化
- アヘン戦争での清の敗北の影響

(2) 各藩の対応…蘭学者のネットワーク

- [水戸藩… [(2) 尊王攘夷] 思想の発生
- [佐賀・長州・薩摩藩…ヨーロッパの思想や技術導入

● 日本の開国

- ・ アメリカの日本進出…対清貿易の中継点、捕鯨の補給基地
- ・ 1853年 [(3) ベリー] が浦賀に来航…開国を勧告
 - 幕府が諸大名や幕臣に意見を求め朝廷へ報告…朝廷や有力大名の発言力強まる
- ・ 1854年 [(4) 日米和親条約] の締結…露・英とも同様の条約を締結
 - 外国船の補給、漂流民保護など
 - アメリカがさらに自由貿易要請、開国・貿易の実施へ
- ・ 1858年 [(5) 日米修好通商条約] の締結…欧州諸国とも同様の条約
 - 不平等項目…関税率の協定、領事裁判権の承認

例: 清は抵抗して戦争を行ったのに対し、日本は開国して欧米を受容した。この違いは、オランダからの情報により、欧米諸国の軍力などに対する認識に差があったことによる。

例: 江戸幕府は、それまで行っていなかった諸大名や幕臣への意見の聴取及び朝廷への報告をしたうえで、開国という決断をした。

学習課題

Q: 日本は、欧米諸国の進出に対してどのように対応したのだろうか。

3 指導書 Web サポートコンテンツ ③ 評価問題例 (テスト例)

- テスト例とその解答を Word データで収録しています。
- 「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の評価観点も示しています。

↓教科書 2部 4章に対応した評価問題例

帝国書院 明解歴史総合 指導資料

2部 4章 産業革命による欧米とアジアの変化

1 次の文章を読み、以下の問いに答えよ。

18世紀の(①)帝国は、地方の有力者が強大化し、(1)政府の支配が全域に行き届かなくなっていた。この状況を見て、ヨーロッパ諸国は(①)帝国への進出を強めた。ヨーロッパの進出を受けたエジプトでは戦力構造が混乱し、軍人(②)が実権を握った。彼は、エジプトに事実上の独立王朝を築いた。

危機に直面した(①)帝国は、1839年に(③)とよばれる近代化改革を開始した。この改革では、(2)オスマン帝国の住民は宗教にかかわらず法の下に平等であるという(①)主義の下、国民の一体化が目指され、後に帝国初の憲法が制定された。これは、国民の平等、議会制、言論の自由などを保障したものだ。しかし、スルタンの専制により中断させられ、1908年まで憲法は停止したままとなった。

ヨーロッパの資本を招き入れ、近代化を進めたエジプトは、商品作物の綿花生産を拡大していった。しかし、(④)建設の途中から、イギリスやフランスからの借金を始め、アメリカ南北戦争の終結による綿花価格の下落も影響し、1876年に財政破綻した。借金が返済不能になると、エジプトは英仏に国家財政を抑えられ、実質的に支配された。(⑤)は、これをイスラム世界全体の危機ととらえ、(3)パン=イスラム主義を説いた。一方、軍人(⑥)は81年に「エジプト人のためのエジプト」を叫び英仏への反乱を起こしたが、翌82年に鎮圧され、イギリスはエジプトを占領し保護国とした。

イランでは、サファヴィー朝に替わったカージャール朝がロシアやイギリスの圧力にさらされた。ヨーロッパ諸国と結んだ不平等な通商条約により、ヨーロッパへの経済的な従属が強まっていったが、独立を保ったイランでは憲法制定や議会開設が目指されるようになって、1905年の(⑦)につながった。

問1 文中の空欄(①)～(⑦)に適する語句を答えよ。(知識・技能)

問2 下線部(1)について、オスマン帝国における周辺諸国や民族の状況を説明したものと最も適切なものを、地図を参考にしてa～dのうちから選び記号で答えよ。(思考力・判断力・表現力)

地図の凡例:
 - オスマン帝国の最大領域 (17世紀後半)
 - 実効支配地域の縮小 (1812年まで)
 - 1914年まで
 - 1914年のオスマン帝国
 - ●は起こった順序

a. クリミア半島の支配をねらって、オーストリアが南下してきた。
 b. 独立戦争にイギリスとロシアが介入し、ギリシアが独立を達成した。
 c. 北アフリカのアルジェリアは、1900年代に入りオスマン帝国の支配から自立した。
 d. フランスとインドの交通を遮断するため、イギリスはエジプトに進出した。

1

c. 紛争を避けるため、薪水給与令の発布
 d. 北方の防備を固めるため、蝦夷地の直轄化

問2 文中の空欄 **B** に入る文として最も適したものを次のa～dから一つ選び記号で答えよ。

a. 水戸藩が天皇を尊び外国を退けようと考えたこと
 b. 水戸藩がヨーロッパの思想や技術を積極的に取り入れようとしたこと
 c. 佐賀藩が琉球との通商から外国事情を聴取しようとしたこと
 d. 佐賀藩が公武合体運動で幕府の威信を回復しようとしたこと

問3 文中の空欄 **C** に入る人物が行ったこととしてふさわしくないものを次のa～dから一つ選び記号で答えよ。

a. 浦賀に来航し、開国を勧告するアメリカ大統領の国書を幕府に渡した。
 b. 最初の来航の翌年に、再度来航してきた。

3 指導書 Web サポートコンテンツ ④ 歴史に迫る! ワークシート

- 生徒用と教師用(評価・解答入り)の2種類をご用意しています。
- 主体的・対話的で深い学びに対応したワークシートです。

↓教科書 p.57-58に対応したワークシートの例(生徒用)

2部「近代化と私たち」4章「産業革命による欧米とアジアの変化」教科書 p.57～58

年 月 日 _____ 年 組 番/名前 _____

歴史に迫る! 2「幕府の対外交渉をどう評価するか」

学習課題 課題に取り組む前に、評価1と2を読んで、どちらの評価が妥当だと考えるか表現しよう。

妥当だと考える評価		そう考える理由	
-----------	--	---------	--

検証A. 幕府側の考え

読み解き 資料①・②を読んで、以下の文章の正しいを思う方に○をしよう。
「幕府は海外の情報を、(得ていた ・ 得ていなかった)。このため、海岸の防備が(必要と考えた ・ 不要と考えた)。」

検証B. 日米和親条約の内容

読み解き 資料③において問題となる条文はあるだろうか。また評価すべき条文はあるだろうか。幕府の立場から考え、下の表に分類しよう。

問題となる条文だと思う		評価すべき条文だと思う	
条文番号	そう思った理由	条文番号	そう思った理由

検証C. ハリスとのやり取り

読み解き 資料④を踏まえ、ハリスの演説は幕府にどのような影響を与えたと考えられるだろうか、述べよう。

質問3 あなたはこの幕府の対外交渉をどう評価するか、学習課題での考えを再検証しよう。①～③の手順で、自分の意見をまとめよう。

① 幕府の対外交渉について、評価1と評価2の根拠となる条文にもそれぞれ触れて評価し、あなたの考えを説明しよう。

3 指導書 Web サポートコンテンツ ⑤見通し・振り返りシート

- 生徒用と教師用（評価・解答入り）の2種類をご用意しています。教師用には設問の解答とループリックにも使える評価規準例を入れています。また、Word版とGoogleスプレッドシート版の2種類のデータがございます。
- 自己評価のための単元ポートフォリオとして活用できます。

↓教科書2部4章の例

学習の見通し・振り返りシート

2部4章 産業革命による欧米とアジアの変化

年 組 前

名前

■学習の見通し

「近代化」を学習する際に立てた「あなたの問い」を書き出そう。もし、前章の学習でリライト（書き直し）した問いがあれば、それも書き出そう。

この章を学習するにあたって「あなたの問い」:

■本章の学習課題

2部4章の学習課題: 欧米の産業革命と世界進出は、世界の隅々にどのような影響をもたらしたのだろうか。

章の学習課題に対するあなたの予想:

■前章の学習課題

各節を学習した後に、前の学習課題に対する回答を書き出そう。

1 産業革命と変わる社会	2 イギリスの産業と国際分業体制
学習課題: 産業革命によって発生した社会の変化は、世界史の歴史に何をもちこんだのだろうか。	学習課題: 世界市場の形成によって、各地域の経済はどのように変化したのだろうか。
解答:	解答:

3 アメリカの欧米化と科学技術の発展	4 西アジアの産業と西アジアの変化
学習課題: アメリカ合衆国の統一と工業化は、世界の動きとどのように関わっているのだろうか。	学習課題: 3部3章の産業革命と世界進出によって、西アジアの社会はどのように変化したのだろうか。
解答:	解答:

5 南・東南アジアの植民地化	6 ヨーロッパの日本接近とアヘン戦争
学習課題: 3部3章の産業革命と世界進出によって、南・東南アジアの社会はどのように変化したのだろうか。	学習課題: 清は、ヨーロッパ諸国との対峙にどのように対応したのだろうか。
解答:	解答:

7 黒船の来航と日本の対応
学習課題: 日本は、欧米諸国の進出に対してどのように対応したのだろうか。
解答:

■本章の振り返り

2部4章の振り返り: 産業革命を経験した欧米諸国の進出は、アジア諸国にどのような成果と課題を生み出したか、あなたの考えを説明しよう。

章の振り返りに対するあなたの考え:

★ステップアップ課題

(1) この章を学習して、p.13にある「近代化」を考える際の6つのキーワードの、新たな発見をし、理解を深めたキーワードがあればここにチェックしよう。また、この章を学習して新たに気づいたことや疑問に思った点があれば書き出そう。

6つのキーワード:

□ 交通と貿易 □ 産業と人口 □ 権利意識と政治参加や国民の義務

□ 学校教育 □ 労働と家族 □ 移民

気づいたことや新たな疑問:

(2) このワークシートを学習して書き出した「あなたの問い」と、(1)で浮かんだ疑問を照らし合わせて、次の章に進むための「あなたの問い」をリライト（書き直し）しよう。リライトせずにそのままの問いで次の章に進む場合も、下の欄に書き出して問いを確認しよう。

次の章に進むための「あなたの問い」:

3 指導書 Web サポートコンテンツ ⑦教科書紙面ビューア

- 教科書全ページの紙面を閲覧できるビューアです。スクリーンなどに投影することで、教科書紙面を大きく提示しながら授業ができます。

↓教科書 p.55-56 の例

3 指導書 Web サポートコンテンツ ⑥教科書本文

- プリントやテストの作成に便利な教科書のテキストデータです。

↓教科書 p55-56 の例

7 黒船の来航と日本の対応

学習課題 日本は、欧米諸国の進出に対してどのように対応したのだろうか。

海外情報への対応

欧米が日本に近づくなか、幕府は、オランダ風説書など外国からの情報や、西洋の地理書の翻訳、蘭国に漂流民からの情報を通じて、ヨーロッパ諸国の世界進出への認識を深めた。アヘン戦争の結果が清の商人などから伝わるなか、幕府は1842年に開港権を認め、欧米諸国との競争を始める一方、海防の強化を進めた。

また、海外情報は幕府のネットワークから日本各地に伝わり、海外に高い関心をもちつる動きも現れた。佐賀藩や薩摩藩では欧米の思想や技術積極的に吸収しようという動きが強まり、水戸藩では尊王思想と外国を避けようとする攘夷が結びついた尊王攘夷思想が生じた。これらの藩では、意見を幕政に反映させようとする動きも活発になった。

日本の閉国

ヨーロッパで1848年からの動乱やクリミア戦争が起こるなか、アメリカがヨーロッパ各国の隙を突いて日本を目指した。国土を太平洋岸まで広げたアメリカは、南京条約で開港した清との貿易における中継地点と、日本近海における捕鯨のための補給地点を確保するために、日本を開国させようとした。ペリーを派遣した。

1853年、ペリーは浦賀沖に到着した。アメリカ船の来航を事前にオランダから通告されていた幕府は、軍事的な対峙は難しいと判断し、開国を勧告するアメリカ大使館の国書を受けた。その後、回答を聞きに来ると言うペリーに備え、幕府は薩大名や下級の幕臣に意見を求め、朝廷にも報告した。それまで幕府が政治に関する意見を求められなかったため、これ以降、朝廷や有力大名は幕府に意見を求め、日本中の人が幕府を越えて政治に関心をもちようになっていった。

翌54年、幕府は日本と和親条約を結び、外国船の補給と漂流民の保護を認めた。以後、露・英なども同様に条約を結んだ。アメリカから自由貿易への要請が強くなるなか、アヘン戦争の戦況が伝えられ、幕府は開国して貿易を行うことを決断した。こうして58年に、日米修好通商条約が結ばれ、ヨーロッパ諸国とも同様の条約が結ばれた。諸条約には、関税自主権が無く領事裁判権を認めるなど、日本に不利な不平等要素が含まれており、その解消は明治時代の外交交渉における大きな課題となった。

開国の影響と近代化改革

日本は、欧米との条約で、世界市場へ参入させられた。そして、貿易が活発になると国内経済は混乱した。世界的に不足した生糸や絹織物が大量に輸出され、国内の絹織物業は原料不足となり打撃を受けた。海外で人気の茶も盛んに輸出された。一方、良質で安価な綿織物や綿糸が輸入され、国内の絹織物業も混乱した。変化に適応しきれない商人が台頭する一方、庶民は苦しい生活に追い込まれた。

また、日米修好通商条約は、開港・開市地での貿易を認め、外国人の移動を厳しく制限した。これは、国内経済の保護につながった。

1 薩摩藩、佐賀藩、長門藩を中心に、財政再建とヨーロッパ技術の導入などの改革が進んだ。また薩摩藩や長門藩では、実力のある下級武士が重用された。改革の成功により、藩の軍事力は強化され、やがて政局をも動かしていった（→p.81）。

2 日米修好通商条約は、開港・開市地での貿易を認め、外国人の移動を厳しく制限した。これは、国内経済の保護につながった。

3 困難する民衆に対し、改革を理由に幕府は次々と重税を課したため、幕府への支持は急速に低下した。また、知識人や豪農のなかには、みずから集めた情報や国字などの学問を通じて政治体制を批判する者も現れた。

歴史の選択

受け入れか拒絶か 海外対応をめぐる論争

アメリカの開国要請について、幕府や下級の幕臣からは大きく4種類の意見が提出された。朝廷や天皇は、アメリカとの自由貿易の開港には基本的に反対していたが、日米和親条約の締結についてはしかたがないと許容した。ただし、明確な意見があったのは一部で、多くの藩は回答せずに様子を見ていた。

考えよう

①四つの論はどのような理由で唱えられたのか、これまでの学習をもとに考えよう。

②意見の傾向は1853年と57年が変わっているが、その理由を考えよう。

③日米修好通商条約は、開港・開市地での貿易を認め、外国人の移動を厳しく制限した。これは、国内経済の保護につながった。

④日本では想像で描かれたアメリカ船（1854年）（神奈川県立歴史博物館蔵）

⑤ペリーの来航と日米修好通商条約の開港・開市地 開市地では貿易が認められたが、外国人による出入りは禁じられた。

⑥幕府からの意見の対立の結果

⑦幕府の物価の変遷

読み書き アメリカ船の来航時、幕府は欧米の動きについて、どのような情報を得ていたのだろうか。

読み書き この時期の物価の変遷について、どのような原因が考えられるだろうか。

確認 アメリカが日本に開国を求めた理由を、本文から書き出そう。

説明 ヨーロッパへの対応について、日本とp.53～54の清で、異なっている点とその理由を説明しよう。

中学校との関連 黒船の来航、開港権争い、尊王攘夷、日米和親条約、日米修好通商条約、関税自主権、領事裁判権

3 指導書 Web サポートコンテンツ ⑧教科書掲載図版〈カラー / モノクロ〉

- プリントやテストの作成などに利用できる教科書掲載図版のデータです。
- カラーとモノクロの2種類をご用意しています。

↑教科書 p.36 図②〈カラー〉

↓教科書 p.36 図②〈モノクロ〉

指導資料

準備ノ

デジタル教材

●明解 歴史総合ノート

判型 B5判 ページ数 156 ページ

内容 教科書に完全準拠したフルカラーのノートです。知識の定着とともに、資料読解問題により、思考力・判断力・表現力を養うことができます。端末活用に適したデジタル版もご用意しています。(→本冊子 p.14-15)

↓教科書 p.55-56 に対応したページの例 (教師用赤刷り版)

2部4章 産業革命による欧米とアジアの変化

7 黒船の来航と日本の対応

【教科書p.55~56】

学習課題 日本は、欧米諸国の進出に対してどのように対応したのだろうか。

読み解き アメリカ船の来航前、幕府は欧米の動きについて、どのような情報を得ていたのだろうか。

教科書p.55史料「オランダから幕府にもたらされた情報」の1843年の情報には、日本の隣国である(ア 清)は、(イ イギリス)軍に何度も打ち負けた、とあることから、幕府は(ウ (例)イギリス軍は強い)と予想することができたと考えられる。また、1852年の情報には、日本と交易を結ぶために(エ アメリカ合衆国)の政府が指揮官「ペルリ」を送り、その船には陸軍および攻城の(オ 武器)が積み込まれているとあることから、幕府は(カ (例)アメリカの軍艦が日本に来る)と予想することができたと考えられる。

チェック 空欄に適語を記入してまとめよう。

読み解きの解説：1843年の情報からイギリスの軍力が強大であることが読み取れる。また、1852年の情報から、幕府は武装したアメリカ船の来航を知らされていたことが読み取れる。この2点の読み取りに、アメリカの軍力への推論を加えたい。

海外情報への対応

(a) 外国からもたらされる情報

- ・(① オランダ風説書) …長崎のオランダ商館長に提出させた報告書。
- ・西洋の地理書の翻訳、帰国した漂流民からの情報など。
- ・清の商人 …(② アヘン戦争)で清がイギリスに敗れたことを伝える。
→(③ 薪水給与令)の発布(1842年) …遭難した船に燃料・食料を給与。
欧米諸国との紛争を避け、海防を強化。

(b) 各藩の反応

- ・海外情報は蘭学者のネットワークで日本各地に広まる。
- ・佐賀藩・薩摩藩 …ヨーロッパの思想や技術を積極的に吸収。
- ・水戸藩 …天皇を尊び外国を退けようとする(④ 尊王攘夷)思想が生まれる。
→意見を幕政に反映させようとする動きが活発になる。

日本の開国

(a) アメリカの日本進出

- ・対清貿易の中継地点と、日本近海における捕鯨の補給地点を確保するため、日本を開国させようとする。
→(⑤ ペリー)を派遣。
- ・⑤は1853年(⑥ 浦賀)沖に到着し、開国を勧告する国書を幕府へ渡す。

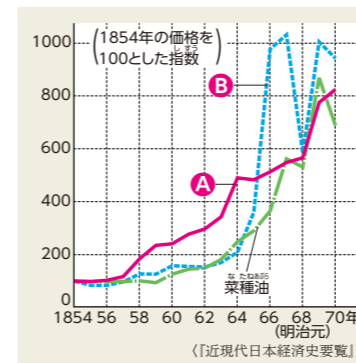
(b) 幕府の対応

- ・諸大名や下級の幕臣へ意見を求め、(⑦ 朝廷)にも報告 → 身分を超えて政治への関心高まる。

条約	締結年	主な内容
(⑧ 日米和親条約)	1854年	外国船の補給と(⑨ 漂流民)の保護。 →露・英などとも同様に結ぶ。
(⑩ 日米修好通商条約)	1858年	関税自主権が無い。(⑪ 領事裁判権)の承認など。 →ヨーロッパ諸国とも同様に結ぶ。

開国の影響と近代化改革

経済・社会の変化	世界市場への参加 輸出：(⑫ 生糸)や蚕卵紙の大量輸出により国内の絹織物業は原料不足になった。 海外で人気の茶を輸出。 輸入：良質で安価な綿織物や綿糸の輸入で綿関係産業が混乱。 →国内経済の混乱、庶民生活に打撃。
幕府・諸藩の変化	(⑬ 近代化改革)の実施 … 軍事力強化と人材登用を行い欧米諸国へ対抗。 幕府：(⑭ 番書調所)の設置 … 欧米の学問を学ぶ。 (⑮ 海軍伝習所)の設置 … オランダ人の指導で海軍技術を学ぶ。 幕府・薩摩藩・長州藩：海外へ使節や留学生を派遣。



チャレンジ 左の幕末の物価の変遷を表したグラフのうち、AとBはそれぞれ米と絹織物のいずれかを示している。このうち、絹織物はどちらか、理由とともに答えよう。

絹織物のグラフ：A

理由：(例)貿易開始後に生糸などが大量に輸出され国内の絹織物業は原料不足となったという教科書の記述から、1858年ですでに価格が上昇しているAが絹織物である。

学習課題をもとに「確認」「説明」に答えよう。

教科書p.55 13~15行目「南京条約で開港した…補給地点を確保するため」

確認 アメリカが日本に開国を求めた理由を、本文から書き出そう。

説明 ヨーロッパへの対応について、日本と教科書p.53~54の清で、異なっている点とその理由を説明しよう。

(例)清は抵抗して戦争を行ったのに対し、日本は開国して欧米を受容した。この違いは、オランダからの情報により、欧米諸国の軍力などに対する認識に差があったことによる。

【ノート欄】

説明の評価のポイント

1. 清と日本それぞれの対応を比較して相違点を説明している。
2. 歴史的事実を用いて、自分が挙げた相違点の理由を説明している。

チャレンジの解説

物価が上昇しているのはA・Bどちらかに着目させる。絹織物が先に高騰していることは、教科書p.56、11~13行目で「世界的に不足した生糸や蚕卵紙が大量に輸出され、国内の絹織物業は原料不足となり」から想定できる。

● デジタル準拠ノート 明解 歴史総合

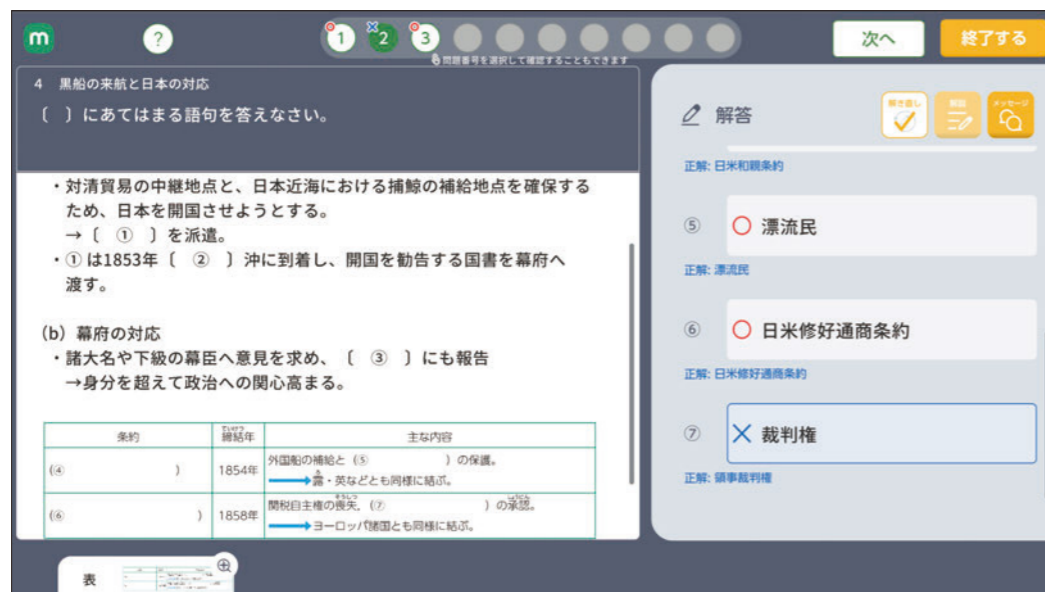
- デジタル準拠ノートは、学習者用端末で自学自習できるドリル教材です。
- 生徒向けには自動採点や復習機能、先生向けには課題管理や評価アシストといった、デジタル版ならではの機能をご利用いただけます。
- 課題設定をする際には、Google Classroom 上でも生徒に通知することができます。

※デジタル準拠ノートの機能は、一部変更になる場合がございます

生徒用機能

デジタルならではの機能

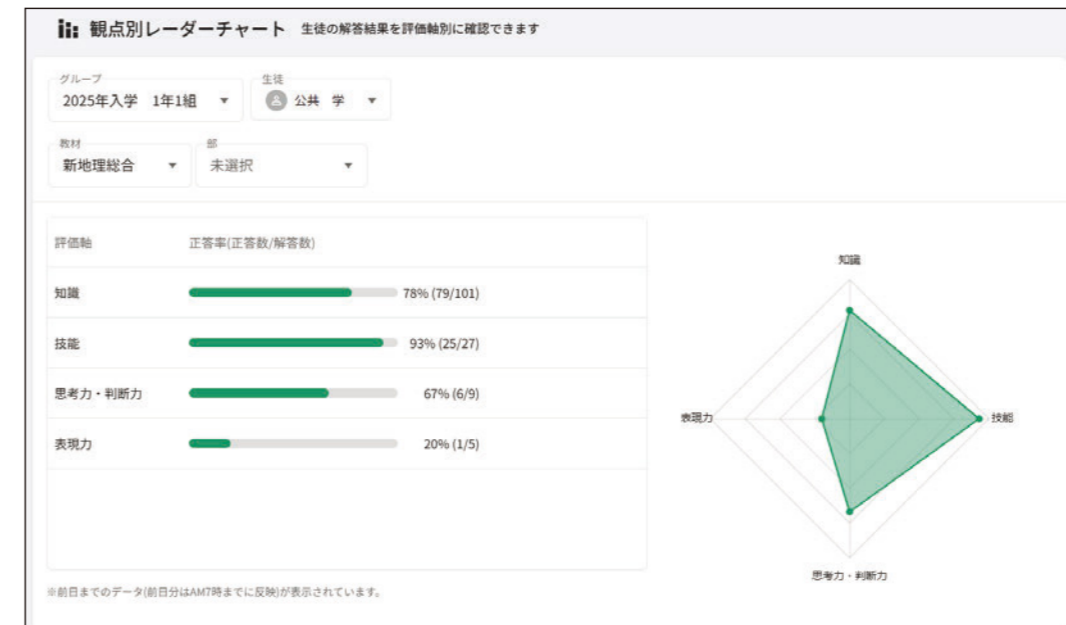
- 解答画面で、手書きまたはキーボード入力を選択できます。
- 解答は自動で正誤判定されるので、先生のご負担軽減にもつながります。
- 繰り返し何度も演習することができるため、基礎知識の確実な定着が図れます。



先生用機能

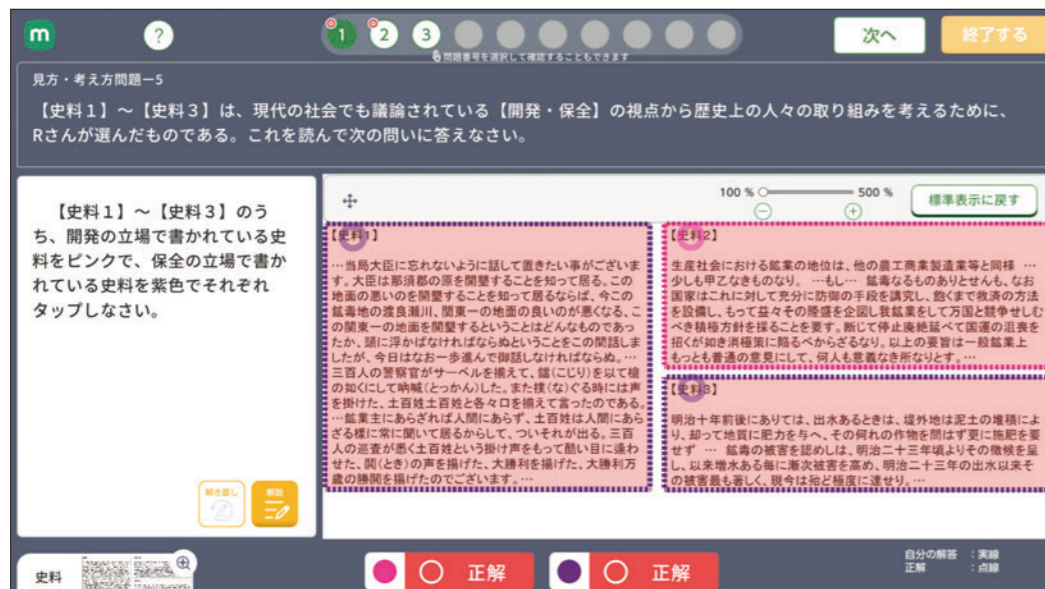
評価に役立つ「観点別レーダーチャート」

- 先生用管理ページには、「観点別レーダーチャート」など、生徒の学習状況を「見える化」できる機能を充実させています。また、学習ログはCSVで出力でき、評価・評定に活用することができます。



オリジナルの「見方・考え方問題」

- 書籍版の準拠ノートには未収録の、資料の読み解きに焦点を当てた「見方・考え方問題」にも取り組むことができます。
- タブレット端末ならではの書き込み機能を用いた、画面をタップしたり多数の資料を参照したりして解答する問題も収録しています。資料への書き込み問題も自動で正誤判定されます。



オリジナルの問題を作成できる「作問ツール」

- 既存の問題だけでなく、先生が独自に問題を作れる「作問ツール」を収録しています。出題形式や評価軸も任意に設定できるほか、「指導書 Web サポート」(別売、→本冊子 p.11) 収録の図版データを取り込んで作問に活用することもできます。



帝国書院ウェブサイト 会員登録方法のご案内

指導書 Web サポートのほかに、ChiReKo (定期刊行冊子) のバックナンバーや、写真・動画、統計など、あらゆる情報を掲載！



帝国書院ウェブサイト ログインページ▶



帝国書院ウェブサイトのトップページ右上の「ログイン」ボタンをクリックします。



「会員登録」をクリックして、登録画面へ。

届いたメールに記載の URL にアクセスして
パスワードや所属先などの必要事項を入力

※メールは迷惑メールに入っている場合がございます

必要事項の入力は、3分ほどで済む簡単な
ものです。



会員登録が完了し、ログイン後は「会員ページ」から、Web サポートなどの各種サービス
を閲覧することができます。

※サイト内の画面は、変更になる場合がございます